

「平成 21 年度 給食研究会」の報告

鹿島地区 能古見保育園

石橋 律子

日時 : 平成 21 年 6 月 22 日(月)
会場 : 佐賀市文化会館イベントホール
主催 : 佐賀県保育会
後援 : 佐賀県

《日程》

9:00 受付
10:00 開会
全国保育士会倫理綱領朗読 (県保育士会副会長・一ノ瀬久子先生)
挨拶 佐賀県保育会会長 田中豊博先生
10:30 平成 21 年度給食研究発表
〔発表地区〕 佐賀地区(北部保育園) 唐津地区(ふたば保育園)
鳥栖地区(慈光保育園) 西武地区(あかり保育園)
12:00 講義「子どもの身体と心を育てる食育」
講師 久野一恵氏 (西九州大学健康福祉学部教授)
16:00 閉会

※司会者 多久地区 双葉保育園 岡崎範子先生
記録者 鹿島地区 能古見保育園 石橋律子
受付 東部地区 ちよだ保育園 宮崎朋子先生

◎ 挨拶・基調報告～佐賀県保育会会長 田中豊博先生

- 給食も保育の一環。 食べることは生きること。
- 給食の先生方が一生懸命作っていただくと、子ども達も生き生きしてくる。
作る人がきちんと作ると、子どもはよい育ちができる。
- 朝ごはんを食べてこない子が多い～親への指導もお願いしたい。
- ごはんは、一人分炊くよりもたくさん炊いたほうがおいしい。
また、孤食よりも、みんなで食べた方が楽しいしおいしい。
- 親への具体的な指導が必要～テレビの久保田かよこさんの番組でのこと
 - ・ある母親からの相談・・・1歳児咀嚼ができない
棒状の肉を噛ませてみてはとアドバイスがあっていた
- 保育制度について～これまでは、入所する場合、役場・市役所が窓口(保育料も役場・市役所に納入)だったが、22年度から保護者に役場・市役所から入園許可証を発行し、保護者が希望園に出向き入園手続きをする(公的手続き)仕方にかわる。(保育料は直接園に納入) 園は役場・市役所に入園者の報告。
 - ※問題点・・・競争が起きてくる。(人気がある園ない園)
 - ・・・保育料滞納者の対応は?
～H21年4月1日より、児童福祉法が改正により、地として独立する。
～「一時保育」が、「一時預かり保育」と改名
25名以下のところは、保育士を1名つける。
保育場所の確保等の変化がある。
- 選挙の結果次第では、保育現場の状況がさらに変わってくる。
特に補助金の問題→職員の給料が減ったり、子どもにも影響がでてくる。

◎平成 21 年度給食研究発表

※各先生方、順に研究資料をもとに発表していただく。

- 「朝食を食べよう!!」～子どもから親への伝達～
鳥栖地区 慈光保育園・藤田可奈子先生
- 「新乳幼児 K 君を受け入れて」～授乳期・離乳食のとりくみ～
西部地区 あかり保育園・岩永みどり先生
- 「地域と歩む、自然を味わう」～家庭での記録をもとに～
佐賀地区 北部保育園・吉村美紀先生
- 「育てて食べよう」～地域老人さんの知恵をかりた伝統食作り～
唐津地区 ふたば園・前田悦子先生

※会場からの質問は出なかった。

※総評～久野一恵先生より～

- どの研究も地域との連携・保護者との連携がなされていた。
- 園内での協力体制がある。
- 園の特徴を考慮した食育が実施されている。
 - ・鳥栖地区～市街地 ……アンケートの必要性
 - ・西部地区～授乳期の園児 ……これから授乳期の園児が増えてくるだろう。
 - ・佐賀地区～自然を満喫 ……自然を大いに利用している。
 - ・唐津地区～和食・魚好きな子・のぶこばあちゃん ……目的をしっかりと持っている。

※評価を形や数字で表すことが出来たら、地域にも発信できるのでは。

※保育指針の改訂の理由

- ・保育所の役割が高まる。
- ・子育て環境の大きな変化
(子どもの数の減少・保護者の子育てへの不安感や負担感の増加)
- ・保育所に期待される役割が深化、増大

講義「子どもの身体と心を育てる食育」 講師 久野一恵氏

【食育のポイント】

- ①保育の一環として実施する。
- ②一人一人子どもの発達過程に合わせて実施する。
- ③協働で実施する。(連携) ～園全体で連携をとって
～園外(地域他)と連携をとって

※保育指針・保育指針解説書の「第2章子どもの発達」と「第5章3.食育の推進」を読み合わせしながら、【食育のポイント】①②③を拾っていく。

※グループワーク～参加者は誕生月ごとに集まりグループを作る。

ブレインストーミングのやり方に沿って進めていく。(5分間)

テーマ「食育が楽しくなる方法」

- 意見発表
《8月班》
 - ・おいしいものが食べられる。
 - ・自分も楽しめる。
 - ・目の前に美味しいものがある。
 - ・自分で作ると美味しい。

- ・ 給食室の中の雰囲気をよくする。
- ・ 笑顔で活動。
- ・ 簡単に出来ること。
- ・ 職員がアイデアを出し食いしん坊であること。
- ・ 空腹であること。
- ・ 自分で美味しいものを食べてみる。
- ・ 皆が楽しかったら楽しい食育につながる。

《 班》

- ・ 自分が楽しみながら行う。
- ・ 成果が出た時の子どもの姿を思い浮かべながら。
- ・ クッキングをしながら子どもの反応を見る。
- ・ 自分の好きな食育をする。
- ・ 無理をしないで、できる範囲で。
- ・ 子どもと一緒に食べる。
- ・ 子どもとゲームをしながら楽しむ。
- ・ 子どもと一緒に食べ物を育てる。
- ・ クッキングをする。(お菓子づくりなど)



自分が楽しいこと。

園児の反応が楽しいこと。 反応をみる。→人間中心

園内で仲良くやりたい。

※2人組になってロールプレイを行う(1回5分間)

テーマ「園内で食育のネットワークを広げよう」～連携を組みたい人を説得する。

やり方・2人組みになる。

- ・ じゃんけんをして役を決める。
- ・ Aさん:説得される人(はい……でも……)ある程度懐疑的に
- ・ Bさん:食育のために連携が必要であると説得する人(ひたすら説得する。)
- ・ それぞれの役を5分ずつ交替して行う。
- ・ それぞれの感想をワークシートに書く。→シートをお互い交換してみる。

※食育推進の行動計画の作成(誕生班で)

- ・ 保育園の会議です。
- ・ ワークシートを完成させる形で食育推進のために行動計画をたててください。



「子どもの心と身体を育てる食育のための行動計画」を班で作成する。(25分間)

○討議内容発表

《4月班》

- ・新入園児が食べない……という現状をふまえて
- ・開始時期は12月
- ・親子バイキングで薄味に慣れよう。
園での薄味を楽しんでもらうため、カレーやシチューなどの一品料理を
- ・切干大根も入れて、親子で選ぶ様子を観察する。
- ・地域の栄養士・保健士のミニ講演会。
- ・行政と連携をとってみたい。

《5月班》

- ・「大豆の変身！」
- ・親子クッキングをする。
- ・6月から栽培開始、園全体で行う。
- ・大豆の生長の観察を親にもしてもらおう。(大豆になるまで)
- ・11月に豆腐づくり
- ・職員、保護者に交渉
- ・地域の農家と連携

《6月班》

- ・「保護者の参加を呼びかけよう。
- ・夏祭りから参加を呼びかける。
- ・年3回～親子でパネルシアター作成
親子で赤・黄・緑の食べ物について知る。→実物へともっていく。

《7月班①》

- ・「おいしい味みつけた。」 園全体、秋実施。
- ・郷土料理ができる人を呼ぶ。
- ・地域の特産物を配ってみる。
- ・大人がおいしいと感じたものを子どもに
- ・JA等に園長が交渉

《7月班②》

- ・「チャレンジ保護者への一声運動」 給食室、一年間
- ・アンケートをとったり、給食のサンプルの掲示をする。
- ・保護者の送迎時に、保護者に声をかけてみる。
- ・日々会話を重ねていく中で、信頼関係を築くように
- ・

《8月班》

- ・「親子でチャレンジ」 4月スタート
- ・給食便り
- ・家庭で余った苗をもらって育ててみる。
- ・保護者会と交渉。

《9月班》

- ・「1年間を丸ごと食べよう」 園全体で 1年間
- ・春～じゃが芋作り、親子でじゃが芋ほり、苺がり→ジャム作り
- ・夏～お父さん方に竹を取ってきてもらい、そうめん流しをする。
- ・秋～さつま芋ほり→スイートポテトづくり。
- ・冬～子ども達にしたいことを聞いて、クッキングしていく。
離乳食について話あいをしてみる。
- ・日本の四季にありがとう。感謝の気持ちを持つ。

《10月班》

- ・「保護者をまきこんだ食育活動」 試食会やクッキング
- ・3月にじゃが芋とたまねぎをうえる。(前年度の3月)
- ・7月にとれたじゃが芋とたまねぎを使って、元気っ子カレー七夕親子クッキング
をする。
- ・3月に手伝ってもらった老人会の方を招待する。

《11月班》

- ・「クッキングおよび地域交流」 秋頃開始
- ・一人暮らしの老人の方を招待する。
- ・給食参観、カレー会(一緒に作って食べよう)
- ・地域の人からみそ作りを教えてもらう。
- ・民生委員さんに交渉。

《12月班》

- ・「保護者会試食会」 保育参観
- ・保護者との連携をはかり、保育参観で試食してもらう。
- ・給食メニューを(日頃家庭でつくってもらえるものを)レシピにして配布。

《1月班》

- ・「親子で一緒にクッキング」
- ・朝ごはんをおいしく→味噌作りをやってみる。 久野先生より
- ・豚汁をつくってみる。(レシピも保護者に配布)
- ・大豆ができる秋にスタートしたい。
- ・味噌作りの知識のある人を呼んで。

- ・久野先生より～自分の朝食を他の人に食べてもらうという案もありますよ。

《2月班》

- ・「愛情弁当進化大作戦」 年間通して
- ・子どもに食べる楽しみをしっかりと。
- ・給食のメンテナンスも兼ねて、月に1回弁当持ってきてもらう。
- ・保育所で弁当つめる。(中身は給食室で作って)
- ・父親と一緒に弁当を作って一緒に遠足に行く。
- ・地域の人から旬のものを提供してもらう。

《3月班》

- ・「野菜を採検する。」 年間を通して
- ・種まき→栽培→収穫を生産農家に手伝ってもらう。
- ・JA等に交渉。

※まとめ

食育のポイント

- ①保育の一環として実施する。
- ②一人一人子どもの発達過程に合わせて実施する。
- ③協働で実施する。
 - ⇒それぞれの専門性を生かす。
 - ⇒話し合いが必要、有効
 - ⇒自分と違う考えを受け入れる。

※計画をたてるとすると、細かいところまで決めていかなければならない。

それも、皆と一緒にしていくと楽しい。職員が楽しいと子どもも楽しくなる。